

令和2年度～令和4年度
山梨県図書館協議会報告書

新館開館10年を迎えての事業の総点検と
コロナ禍における図書館機能と運営について

令和5年1月
山梨県図書館協議会

目 次

はじめに	1
1) 新館開館 10 年を迎えての事業の総点検	2
I 読書活動を推進する図書館	2
1 資料収集の状況	2
(1) 都道府県立図書館での全国ランキング	
(2) 選定方針	
(3) 購入資料統計	
(4) 購入希望資料統計	
(5) 電子書籍コンテンツの充実	
2 市町村立図書館等への支援	4
(1) 研修事業について	
(2) 図書館間協力について	
(3) 団体事業について	
3 学校図書館の支援	5
(1) 学校司書・司書教諭との連携	
(2) 学校支援セット	
(3) 講師派遣	
4 子ども読書支援センター	5
(1) センター事業のまとめ	
5 やまなし読書活動促進事業(やま読)	7
(1) 事業の経緯と主な事業の実績	
6 今後の取り組みについて	8
II 課題解決を支援する図書館	9
1 課題解決のための資料収集	9
(1) 課題解決資料の収集	
(2) 収集体制	
2 課題解決型サービスの取り組み	9
(1) サービス体制	
(2) 利用者サービスの取り組み	
(3) 行政支援サービス	
3 各主題分野に対するサービスの質向上の取り組み	10
(1) サービスの体制	
(2) 利用者サービスの取り組み	
(3) 職員の研修	
4 専門機関等との連携	11
(1) サービスの体制	
(2) 連携の事例	
5 今後の取り組みについて	11
III 地域学の殿堂を目指す図書館	12
1 地域資料の収集	12
(1) 収集統計	

(2) 収集の取り組み等		
2 地域資料(情報)の所在の把握	12
(1) 図書館等の所蔵資料検索		
(2) 各種リスト等の利用		
(3) WEBサイトの利用等		
(4) 現地での情報収集		
3 山梨関係レファレンス・サービス	13
(1) 山梨レファレンス担当者の配置		
(2) 特別コレクション等のコーナー設置		
(3) WEBサイトの利用等		
4 デジタルアーカイブ	14
(1) 概要		
(2) 登録実績		
(3) デジタル化資料		
5 今後の取り組みについて	15
IV 賑わいを創出する図書館	15
1 様々な活動の場所としての活用	15
(1) 各種の県民活動の場 - 交流エリアの利用 -		
(2) 学びの場		
- 「サイレントルーム」「パソコン用電源席」など -		
(3) 図書館協力員のボランティア活動を行う場		
- 図書館協力会の活動 -		
(4) 情報発信の場		
2 主催・共催事業、指定管理者自主事業	17
(1) 主催事業		
(2) 共催事業		
(3) 指定管理者自主企画事業		
3 地域との連携事例	18
(1) 館長出張トーク		
(2) ヴァンフォーレ甲府との連携イベント		
(3) 地域イベントへの参加・協力		
(4) 雑誌スポンサー制度		
(5) やまなし読書活動促進事業(やま読)		
4 今後の取り組みについて	18
2) コロナ禍における図書館機能と運営について	20
1 感染拡大防止対策	20
(1) 利用制限		
(2) 感染症対策		
2 非接触サービスの充実	21
(1) オンラインサービス		
(2) 非接触型サービス機器の導入		
3 今後の取り組みについて	21
【参考】感染症対応補正予算の概要	22
【資料】 協議経過、委員一覧	23

はじめに

山梨県立図書館は、県民に親しまれ、県民とともに成長・発展していく図書館を目指して、平成 24 年 11 月、JR 甲府駅北口前に新しい図書館を開館した。新館開館後は、毎年 90 万人以上の来館者があり、資料の貸出点数も旧図書館との比較で年間 4～5 倍で推移している。また、イベントスペースや交流ルームなどの利用も多く、県民の活動拠点として幅広い支持が得られており、令和 4 年には新館開館 10 年を迎えることとなった。

一方、図書館界全体に目を転じると、公共図書館の在り方に対する様々な視点からの議論は続いており、公共図書館が地域社会に果たす役割について再確認するべきであるとの提言もなされている。また、新型コロナウイルス感染症のまん延は、それぞれの図書館に感染症への対策を強いると同時に、「コロナ禍後」のサービスのあり方までを問う事態となっている。

新館開館 10 年を迎えるにあたって、県立図書館の役割を再確認しながら、これまでの事業を再点検し、ウィズコロナ時代への対応も視野に入れ、県立図書館の今後のあり方について本協議会で協議した。この報告書は、その内容をまとめたものである。今後の図書館運営・サービスの向上につながれば幸いである。

令和 5 年 1 月

山梨県立図書館協議会会長 長谷川 千秋

1)新館開館 10 年を迎えての事業の総点検

山梨県立図書館は、平成 24 年 11 月 11 日に現在のJR甲府駅北口前に新築・移転し、県民とともに成長・発展していく「山梨県民図書館の構築」を目指し、次の6つのコンセプトを掲げて運営を行ってきた。

- ・すべての県民のための図書館
- ・県民が創造する図書館
- ・開かれた図書館
- ・成長する図書館
- ・県民の活動を支える図書館
- ・山梨の文化を支え、創造する図書館

山梨県図書館協議会は、平成 28 年 11 月 11 日の答申「山梨県民図書館としてのサービスについて－6つのコンセプトの具現化を目指して－」（以下「平成 28 年答申」）において、6つのコンセプトを踏まえ運営の現状を検証し、今後の目指すべき方向性についていくつかの提言を行っている。新館開館 10 年を迎えての事業の総点検を行うに際し、「平成 28 年答申」で目指すべき姿として示された以下の項目に沿って、各事業の実施状況、今後の取り組みについての本協議会の意見をまとめた。

- I 読書活動を推進する図書館
- II 課題解決を支援する図書館
- III 地域学の殿堂を目指す図書館
- IV 賑わいを創出する図書館

I 読書活動を推進する図書館

1 資料収集の状況

(1)都道府県立図書館での全国ランキング

年度	蔵書冊数(図書)	全国ランキング	全国平均	中央値
2021(令和 3)	690,603	46 位	1,108,773	983,490
2020(令和 2)	677,688	46 位	1,086,443	947,277
2019(令和元)	663,430	46 位	1,073,615	970,960
2018(平成 30)	658,887	46 位	1,059,411	951,590
2017(平成 29)	652,223	46 位	1,048,579	937,762
2016(平成 28)	649,343	46 位	1,028,014	923,652
2012(平成 24)	597,237	45 位	969,178	—

都道府県立図書館の統計(『日本の図書館』調査票より―図書館雑誌8月号―)より

○蔵書冊数は、平成 24 年度の 45 位からこれまで 46 位の間を推移している。全国的に見て低位であることから、県立図書館としてより高度で専門的な資料の収集にも留意しつつ、県民の幅広い知的ニーズに応える資料、調査研究及び地域の文化・経済活動に必要な資料の充実を果たしていく必要がある。

(2)選定方針

- 「山梨県立図書館資料収集基本方針」により、図書・逐次刊行物・視聴覚資料等、様々な図書館資料を地域の事情や利用者の要望に沿い、時宜にかなった新しい主題に留意しながら資料の収集に努めている。
- 具体的な資料収集にあたっては、「山梨県立図書館資料区分別収集規程」及び「山梨県立図書館資料・主題別選書マニュアル」に基づいて行っている。
- 年度当初には重点収集資料の設定や、資料選定の分野担当制にも取り組み、幅広く柔軟な発想と多くの利用者の要求に応えられる蔵書構築に努めている。

(3)購入資料統計

年度	受入図書冊数	(うち児童図書)	うち購入図書	(うち児童図書)
2021(令和3)	13,818	(3,130)	11,621	(3,078)
2020(令和2)	14,573	(3,424)	12,408	(3,358)
2019(令和元)	17,347	(3,272)	12,556	(3,179)
2018(平成30)	18,685	(3,365)	12,383	(3,188)
2017(平成29)	15,286	(2,935)	11,968	(2,659)
2016(平成28)	15,420	(2,688)	12,547	(2,616)
2012(平成24)	31,666	—	20,505	—

都道府県立図書館の統計(『日本の図書館』調査票より—図書館雑誌8月号—)より

- 受入図書冊数は若干、増加傾向にあるが、購入図書冊数は、概ね12千冊台で推移している。
- 将来を担う子どもたちのための読書環境の整備のため、子ども読書支援センターを支える児童図書の充実を重点収集分野に位置づけ予算配分して収集しており、購入図書冊数も増加傾向にある。

(4)購入希望資料統計

年度	購入希望資料点数	購入決定資料点数	割合(%)
2021(令和3)	90	76	84.4
2020(令和2)	57	41	71.9
2019(令和元)	89	80	89.9
2018(平成30)	110	83	75.5
2017(平成29)	90	63	70.0
2016(平成28)	112	98	87.5
2012(平成24)	56	23	41.1

- 購入希望の受入決定率は、新館開館後大幅に増加し、概ね70～90%台の間で推移している。
- 購入希望は、「購入希望資料票(第四号様式)」により受け付け、毎週開催される選定小委員会において、選定方針に照らし検討するとともに、利用者ニーズを考慮して購入の可否を決定している。
- 選定結果は、利用者に報告し、購入する場合は、予約処理を行い最初に利用できるよう手配している。また、購入しない場合も、利用者の要望によって相互貸借で対応している。

(5)電子書籍コンテンツの充実

年度	年間購入タイトル数	年間購入点数	所蔵点数	貸出点数
2021(令和3)	1,422	1,432	8,370	2,226
2020(令和2)	2,106	2,653	6,988	1,924
2019(令和元)	193	248	4,335	774
2018(平成30)	81	243	4,087	697

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度・3年度に、補正予算対応により、電子書籍の一層の充実を図った。具体的には、これまで購入してきた県立図書館特有の専門的な資料群に加え、若い世代が気軽に利用できるように資料も積極的に購入して、多くの人々が来館しなくても読書活動を維持できるように整備を進めた。

2 市町村立図書館等への支援

(1) 研修事業について

- 各図書館がより質の高いサービスを提供できるようにするため、「図書館職員専門研修」を年6回実施している。そのうち数回は、県公共図書館協会と共催実施している。
- 子ども読書支援センター事業として、「子どもの読書指導者養成講座」「子どもの読書オープンカレッジ」を開催している。
- 山梨県公共図書館協会においても図書館職員向けの研修事業として、「山梨県図書館大会(年1回)」や「全体研修会」、各部会(児童奉仕研究部会、地域資料研究部会等)による研修会が行われている。

(2) 図書館間協力について

① 相互貸借資料の搬送

県内市町村立図書館への相互貸借資料搬送については、新館開館時から市町村立図書館を地域ごとにブロック分けし、各ブロックに週1回の搬送を行う巡回ルートを確立。それまでの不定期巡回から、週1回の定期巡回搬送となったことにより、県民のニーズに迅速に応えられるようになった。

② 山梨県図書館情報ポータルへの運用

平成30年11月から、図書館相互協力の支援システムである「山梨県図書館情報ポータル」を稼働した。従来からの総合目録データベースを基盤とした相互貸借業務の処理機能に加え、レファレンス・サービスの依頼や掲示板等による情報交換、情報共有によって円滑に幅広い連携が可能となり、各図書館のサービス向上につながっている。

※県全体では6万冊を超える相互貸借があり、年々増加している。

③ 県立図書館からの協力サービス

団体貸出や特別貸出による資料提供、協力レファレンスなどを実施し、市町村立図書館からの多様なニーズに対応している。令和3年度からは、市町村立図書館へのデジタイズ図書再生機の貸出サービスを始めるなど、障害者サービスの支援にも力を入れている。

④ 図書館協力担当者会議

時宜に応じた懸案事項の討議や、県内公共図書館の各種業務についての状況報告、参加館同士の意見交換を行っている。市町村立図書館の実務担当者がそろう貴重な場であり、県立図書館の支援・協力業務に対する御意見、御要望を伺い、業務に反映する機会となっている。年1～2回開催。

⑤ 広域返却サービス

県立図書館で借りた資料を県内公共図書館で返却できるサービスとして平成28年度一部の図書館で試行、平成29年度より11市町村、24館で本実施となっている。新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、一時休止したが令和3年5月11日以降再開している。コロナ禍以前の令和元年度は596件、2,833冊の利用があった。

(3) 団体事業について

○ 山梨県公共図書館協会

県内の公共図書館(県立、市町村立)等を会員とし、図書館事業の進歩発展を目的とする団体。山梨県立図書館に事務局があり、県立図書館の職員が事務を行っている。上述の研修会の実施、宅配便による図書館資料の相互貸借(テル便)事務、毎年県立図書館と共同して『山梨県の図書館』(白書)や『子どもにすすめたい本』を編集発行している。

また、日本図書館協会や全国公共図書館協議会、関東地区公共図書館協議会等と連携し、各種事業を行っている。

3 学校図書館の支援

(1) 学校司書・司書教諭との連携

テーマに沿って複数の本を順に紹介する「ブックトーク」に取り組んでいる。研究開発のため、平成 26 年度から 29 年度まで、小学校 3・4 年生から中学生までが対象のブックトークのシナリオ作成と提供、教員・学校司書等への研修、実践を行った。平成 30 年度・31 年度は高校生を対象としたブックトークのシナリオを、高等学校司書へのアンケート調査結果を元に作成、提供した。令和 2 年度以降もブックトークシナリオの作成を継続し、ホームページへ随時公開を行っている。

中学生・高校生の利用促進を目的として平成 27 年度から平成 29 年度まで、中学校・高校の学校図書館司書と連携し、資料展示の事業を行った。おすすめの本 100 冊を紹介する「本のサプリ」の作成と展示、県立図書館ティーンズコーナーの展示素材を学校図書館に提供・利用を実施した。

(2) 学校支援セット

朝の読書活動や調べ学習など、学校における読書活動推進に資するため、また、学習指導要領で重視している探究学習の充実をはかるため、テーマ別・対象学年別に編成した図書セット「学校支援セット」の貸出を実施している。平成 24 年 11 月の新館開館から開始した。

団体貸出とは別に、学年毎に 1 セット、30 日間貸出する。また、セットの受取・返却は、県立図書館のほか、指定する市町村立図書館でも可能である。

セット内容は、10 年間に一部追加、名称・内容の再編を行い、令和 4 年度現在、小学校向け 25 セット、中学校・高等学校向け 10 セットを提供している。

*学校支援セット貸出実績

年度	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
貸出回数	1	5	9	17	10	8	14	5	21	6

※H24 年度は新館開館した 11 月以降

(3) 講師派遣

絵本の読み聞かせやブックトーク等をテーマとした、子どもの読書に関する研修会に、県立図書館の職員を講師として派遣する事業を行っている。学校関係では、教員・学校司書等の研修会や、高校生の講座への派遣実績がある。

*講師派遣実績(子どもの読書に関するもののみ)

年度	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
総数(うち学校)	3(2)	3(2)	7(5)	3(3)	7(4)	9(4)	11(3)	16(3)	22(7)	—

※H24 年度は記録無し

4 子ども読書支援センター

(1) センター事業のまとめ

新館開館時、子どもの読書活動の推進拠点として、「山梨県子ども読書支援センター」を設置した。児童青少年サービスの充実と、子どもの読書活動に携わる人や子どもの読書活動推進を行う機関・団体への支援を目的とし、7つの機能を展開している。主な関連事業は以下の通り。

①資料の収集、提供

- 児童図書の網羅的収集
 - ・多言語資料やバリアフリー図書、児童書研究・作家研究のための資料も含む。
- 学校支援セットの整備・貸出

②情報の収集、提供・発信

- 「やまなし子どもの読書情報」の発行: 県内外の子どもの読書に関する情報誌
- 「子ども読書支援センターニュース」発行
- ホームページ、SNS での発信
- 外部媒体での児童書紹介
 - ・山梨日日新聞: 毎月、テーマを設け紹介。
小学校低・中・高学年、中学生向け図書各 1 冊・計 4 冊。
 - ・やまなし子育てネット: 毎月。パパ、ママ、じいじ・ばあば向けに紹介。
読み聞かせ用絵本を各 2 冊・計 6 冊

③相談受付、レファレンス・サービス

- 子どもや子どもの読書に関わる人に対するレファレンス・サービス、読書相談
- 情報の調べ方をまとめた「パスファインダー」の作成・提供

④人材育成

- 初級者向け研修会(山梨大学との連携事業)
 - ・「子どもの読書活動推進スキルアップ講座」(~H28)
図書館・保育園等の職員、ボランティアが対象の 5 回講座。
 - ・「子どもの読書オープンカレッジ」(H29~)
対象者を広げ、5 回のうち 1 回ワークショップを取り入れた講座。
- 子どもの読書の指導者育成のための研修会
 - ・「子どもの読書活動指導者養成講座」(H22~H24)
対象者を年度別に限定した 5 回講座。
 - ・「児童青少年サービス中級編」(H25~H27)
児童サービスの経験が 3 年以上の図書館・学校図書館職員を対象。年度別にテーマを設定。
5 回講座。
 - ・「子どもの読書指導者養成講座」(H28~)
4 回講座。平成 29 年度よりボランティアにも対象を広げ、全回参加を必須。修了者を子どもの読書指導者とし、所属団体名を県立図書館ホームページに公開。
- 県立図書館職員の講師派遣: 子どもの読書に関わる研修会、通年受付

⑤調査・研究、開発

- 「児童青少年サービス実施状況調査」(県内公共図書館対象、毎年)
- 「子どもの読書関係 NPO・ボランティア団体調査」(H25~、隔年)
- ブックトーク等の読書プログラムの開発

⑥普及、啓発

- 「子どもの保護者への啓発事業」(NPO 法人山梨子ども図書館へ委託)
子どもの保護者対象の読書に関わる講演会等に講師を派遣。
平成 24 年度は 6 箇所、以降は年間 12 箇所。
- 「子ども読書推進フォーラム」(H24~H28、NPO 法人山梨子ども図書館へ委託)
子どもの保護者への読書啓発事業。平成 28 年度で終了。
- 啓発パンフレット作成(毎年)
読み聞かせ・ブックトーク等の実技ガイド、年代別のおすすめブックリスト
- 資料展示
ティーンズコーナー(年 4~5 回)、ミニ展示(年約 20~30 回)でのテーマ展示
- おはなし会
よちよちおはなし会(0 歳から 2 歳)・とことこおはなし会(3 歳以上)
毎日開催、年間 2,000 人から 3,000 人参加(~R1)。

コロナ禍で中止、令和2年1月再開、月2、3回に減らし実施。
令和4年10月から月4回としている。

○科学あそび教室(H25～H27)

夏休みに小学生を対象とした自由研究・工作教室。平成27年度で終了。

⑦関連機関・団体への支援、連携・協力

- 「子ども読書ボランティアバンク」提供(H25～、隔年)
実演可能団体や新規メンバー募集团体の情報をHPで発信
- 子ども読書支援用品の整備・貸出
エプロンシアター、パネルシアター等
- 図書館見学受入
- 職場体験・インターンシップの実施(中学生・高校生を対象)

5 やまなし読書活動促進事業(やま読)

(1) 事業の経緯と主な事業の実績

阿刀田高館長(現名誉館長)の発案により、県民の読書活動に対する理解を深めるため、本を贈る習慣の定着を図るイベント等を平成26年度から開催している。県内書店や各種図書館、出版関係者等からなる実行委員会が企画・運営し、次の事業を行っている。

①県生涯学習課が中心となって開催

- ・ブックフェア 県内各所(図書館・書店)で統一テーマによる展示を開催
- ・ビブリオバトル 書評合戦(全国大会予選を兼ねる)
- ・ワインと本と作者と ワインを飲みながら作家と語り合う会

②書店が中心となって開催

- ・やま読ラリー 書店と図書館をめぐるスタンプラリー

③当館が中心となって開催

- ・贈りたい本大賞

家族や友人など大切な人に贈りたい本について、選んだ理由や贈りたい理由を150字以内にまとめた推薦文を募集。大賞3点と館長賞等を表彰している。令和2年度までは大賞5点としていたが、令和3年度から大賞を中学生以下、高校生、一般の3点とした。

*贈りたい本大賞実施状況

年度	応募数					館長賞
	総数	小学校以下	中学校以下	高校	一般	
2021(令和3)	4,281	441	781	2,746	313	青洲高
2020(令和2)	4,502	149	963	3,043	347	山梨高
2019(令和元)	6,018	630	833	4,174	381	北杜高
2018(平成30)	5,654	321	858	4,066	409	白根飯野小
2017(平成29)	3,017	75	716	2,129	97	韮崎工業高、竜王北中
2016(平成28)	3,201	19	297	2,747	138	市川高、甲府昭和、竜王北中
2015(平成27)	2,731	区分集計なし				館長賞設定なし
2014(平成26)	2,617					

- ・「こんな時この一冊」資料展示
県内市町村図書館から推薦図書(原稿)を募集。当館職員が山梨日日新聞で紹介している本と合わせて展示。平成 26 年度から毎年開催。
- ・館長連続講座
館長による年 6 回の連続講座。平成 24 年度からテーマを変え毎年開催(令和 2~4 年度は感染症対策のため単独講座として実施)。
- ・著名人による講演会や館長との対談
年 2 回程度開催。これまでに辻村深月氏、浅田次郎氏、藤原正彦氏、中江有里氏、中島京子氏、なかにし礼氏、いとうせいこう氏らが講演・対談。
- ・贈りたい本の市(協力会主催)
誰かに読んでもらいたい本をメッセージ付きで渡していく古本市。平成 26 年度から毎年開催(令和 2~3 年度は感染症対策のため中止)。

6 今後の取り組みについて

- 蔵書数、購入予算の全国ランキングは低い、貸出数、来館者数が多いなど、良い点もあるので、広報に工夫しながら、今後は所蔵数を増やしつつ質の高いサービスを展開していくことが求められる。
- 利用者のリクエストに応える購入希望などは積極的に行うべきである。利用者のニーズを把握する方法のひとつとして、利用者や各分野の専門家に選書に係わってもらうことなどは、蔵書の充実につながるのではないかと考えられる。
- 蔵書を増やすには、予算を維持して、毎年新しい本を購入しながら少しずつ増やしていくのが一般的である。年間 15,000 冊受け入れるとして全国レベルに達するには相当の年数を要するが、県立図書館として蔵書を充実させるためには長いスパンで考える必要がある。
- 電子書籍の導入は、コロナ禍により全国的にも急激に増加している。非来館型サービスとして重要であり、高齢者や子どもなど来館が困難な利用者にとってもメリットがある。期限付きやサブスクリプションサービスなど新しい利用形態についても検討が必要である。また、利用状況により、点検や入れ替えを考える必要がある。
- 子ども読書支援センターの事業として、電子書籍やオンラインで利用できるコンテンツの研究は、今後の新しい形のサービスに生かすためにも有効である。
- 中学校・高校の学校図書館と連携し、資料展示事業を行った例があるが、子どもたちがいつも目にしている国語の教科書に出てくる文章の中から、短い文章を切り取り紹介・展示することで、読書へのきっかけを提供することができる。
- 子どもの読書指導者養成講座は、平成 28 年度から実施しており、研修修了者がどの団体にいるのかを県立図書館のホームページで紹介している。講座の継続により指導者が育っているが、今後は講座の修了者が各市町村や読書グループ、学校など地域での読書活動の指導者として一層活躍されることが期待される。
- 自宅で過ごす時間が増えているコロナ禍は、読書を楽しむチャンスと捉え、生涯学習や娯楽も含めての様々な体験の機会を図書館が地域に届けていくことが求められる。贈りたい本大賞やブックフェアなど、やま読の活動の情報や、親子や小学生が本を楽しむためのヒントとなる情報を、積極的に発信していくことが重要である。

Ⅱ 課題解決を支援する図書館

1 課題解決のための資料収集

(1) 課題解決資料の収集

- 知識や情報を求めるすべての県民の要求に応え、暮らしや仕事に役立つ情報入手の拠点施設として、各種の資料の整備を行う目的から、年度当初には重点収集資料を設定している。
- 令和4年度は、子ども読書支援センターを支える児童図書、障害者や高齢者の読書活動を推進する障害者・高齢者読書支援資料、県民の生活に役立つビジネス支援及び、医療分野の充実をはかるビジネス・くらし支援資料などを重点収集分野と位置づけ、予算配分を分化して収集している。
- 平成30年度から評価指標の項目に、「課題解決資料受入数(ビジネス・くらし支援資料の受入数)」を設定しており、年間受入図書冊数も増加傾向にある。

* 課題解決資料年間受入数

年度	冊数
2021(令和3)	2,427
2020(令和2)	3,183
2019(令和元)	2,717
2018(平成30)	2,793

※「評価指標実績」より

(2) 収集体制

- 資料選定の分野担当制に取り組み、担当分野についての利用ニーズや蔵書構成の把握など、職員間のコミュニケーションを図りつつ、幅広く収集した情報を選書に反映させることで、効率的な収集を目指している。

2 課題解決型サービスの取り組み

(1) サービスの体制

- 司書有資格職員によるレファレンス・サービスを提供している。レファレンスの申し込みは、来館のほか、電話、FAX、電子メール、図書館ホームページ上のレファレンス申込みフォームで受け付けており、利用者の都合により開館時間に制限されず、申込方法を選択することができる。
- 新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式として、オンラインでの利用が増加したため、レファレンスに関しても、図書館ホームページ上のレファレンス申込みフォームによる申し込みが増加している。文書として回答する必要があるため、レファレンス件数は減少しているものの、文書事務の負担が増加している。
- 館内には、2階にレファレンスデスク(2席)、山梨レファレンスデスク(1席)を設置しているが、全レファレンスデスクに人員を配置できず、利用状況等により、効率的なカウンターの職員配置を検討してきた。現在は山梨レファレンスデスクを閉鎖しており、コロナ禍以降、対面での長時間対応による感染を防止するためレファレンスデスクも閉鎖し、サービスカウンター(2名)にてレファレンス・サービスを行っている。

*レファレンス件数

年度	件数	内訳			
		口頭	電話	文書	メール
2021(令和3)	34,054	31,057	2,676	44	277
2020(令和2)	28,649	26,088	2,297	48	216
2019(令和元)	45,314	42,582	2,530	62	140
2018(平成30)	49,387	46,893	2,386	33	75
2017(平成29)	68,520	65,651	2,736	21	112
2016(平成28)	63,518	60,834	2,526	43	115
2015(平成27)	58,613	57,015	1,421	67	110
2014(平成26)	44,150	42,761	1,231	58	100
2013(平成25)	44,324	42,927	1,303	37	56
2012(平成24)	25,170	24,376	745	32	17

(2)利用者サービスの取り組み

- 受け付けたレファレンス事例のうち、利用者の活用が見込まれる事例を選択して、図書館ホームページに掲載している。図書館ホームページのレファレンス事例集は、令和2年度からページをリニューアルし、新規事例を追加した。また、過去の事例をキーワードで検索できるレファレンスデータベースを公開し、令和3年度末までに1,877件を登録している。併せて国立国会図書館レファレンスデータベースにもレファレンス事例を登録することで、利用者の調査研究活動を支援している。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館・臨時窓口設置期間は、電話、FAX、電子メール、図書館ホームページ上のレファレンス申込みフォームでの、非来館型の受け付けの周知に努め、レファレンス・サービス業務を継続して行った。

(3)行政支援サービス

- 県庁に対しては、行政資料を収集して、議会・行政の各種調査や企画立案業務を支援する「行政支援サービス」を行い、令和3年度からはグループウェアの掲示板を利用して積極的な広報にも努めている。
- 県庁各課の施策・事業に合わせた連携展示は、令和元年度から積極的にPRして連携先を募集し、年間を通じて展示を行い、県政の課題に関する資料を、効率的・効果的に利用できるようにしている。

3 各主題分野に対するサービスの質向上の取り組み

(1)サービスの体制

- 調査サービス担当では、一般資料に関するレファレンス・サービス担当者と、地域資料に関するレファレンス・サービス担当者を配置し、それぞれが各分野における課題解決に役立つ資料の選定、レファレンスコレクションの構築、レファレンス事例のデータベース化、資料紹介展示の企画等を行うことで、各主題分野に対するサービスの質向上に取り組んでいる。

(2)利用者サービスの取り組み

- 一般資料コーナーの情報サテライト1では、仕事やくらしに役立つ情報や旬の話題など、さまざまなテーマで所蔵資料を紹介する展示を行っている。また、山梨関係資料コーナーの情報サテライト2では、山梨県に関連したテーマで所蔵資料を紹介する展示を行うことで、テーマに関連する資料を効率的・効果的に利用できるようにしている。展示を終了した後も参照できるよう、図書館ホームページ、または「山梨ポータル 発見!やまなしナビ」内でブックリストを公開している。
- 旧図書館から引き続き、利用者が特定の主題に関する資料や情報を収集するのに役立つ「パスファインダー」を作成、必要に応じて改訂し、館内および図書館ホームページ内で利用者に提供している。

- 新型コロナウイルス感染症に関しては、令和2年度に図書館ホームページ上に「自学自習支援・新型コロナウイルス関連情報収集のためのリンク集」を作成し、情報提供を行っている。また館内には令和3年9月から新型コロナウイルス関連資料展示「ウィズコロナ・ポストコロナ時代を生きる」コーナーを常設展示し、ブックリストを、webOPAC、館内OPACの「おすすめ資料」で公開している。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館・臨時窓口設置期間は、資料選択の一助となるよう、テーマ別のブックリストを図書館ホームページ上に公開した。

(3) 職員の研修

- 国立国会図書館のレファレンスサービス研修(「科学技術情報の調べ方」「人文情報の調べ方」)、ビジネス支援図書館推進協議会のビジネス・ライブラリアン講習会等に参加し、習得した内容について館内の職員に還元することで、スキルの向上に努めている。
- 過去には、館内の職員向けに、地域資料に関するレファレンスツールについて学ぶ研修会を行った。
- 受け付けたレファレンス事例については、業務システムのレファレンスデータベースに蓄積し、職員が参照できるようにすることで、サービスの効率化と平準化を図っている。

4 専門機関等との連携

(1) サービスの体制

- 県立文学館、県立博物館、県立大学図書館との人事交流を行っている。

(2) 連携の事例

- 専門機関や国立国会図書館等他の図書館での調査が必要なレファレンスについては、照会して回答する。また、専門機関を紹介するレフェラルサービスを行っている。
- 国立国会図書館が全国の公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館等と協同で構築しているレファレンスデータベースに、レファレンス事例を登録することで、レファレンス・サービスの全国的規模での相互支援を行っている。
- 課題解決に関する資料を所蔵していないときには、県内の公共図書館等、国立国会図書館、県外の都道府県立図書館等から、資料の取り寄せ(相互貸借)や文献複写の取り寄せを行っている。
- 県内市町村立図書館等からのレファレンス受付については、電話、FAX等で行っていたが、平成30年からは図書館情報ポータルでの専用フォームでの受付・回答を開始し、利便性の向上を図った。
- 旧館時より、国立国会図書館サーチに図書の書誌データの提供を行っている。山梨デジタルアーカイブについては、平成27年度から国立国会図書館サーチにメタデータの提供を行った。また、これらは国立国会図書館サーチを通じてジャパンサーチにデータ提供を行い、全国的規模での相互支援を行っている。
- 平成26年2月から、館内での国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの提供を開始し、国立国会図書館のデジタル化資料の一部を、県立図書館で閲覧・複写できるようにした。
- 新館開館時から開始した障害者サービスとして、サピエ図書館との連携により、読書が困難な方に対してデジ資料の提供ができるようになった。また、令和3年度からは、国立国会図書館のデータ送信サービスの利用承認を受け、国立国会図書館が所蔵する学術文献の視覚障害者等用資料の提供が可能となった。

5 今後の取り組みについて

- コロナ禍で利用制限がある中でも、メールやFAXなど直接来館以外の方法で、レファレンス・サービスが継続されたことは評価される。情報技術の発達とコロナ禍とが重なって、非来館型のサービスの提供が求められており、今後はオンラインレファレンスの可能性も検討する必要がある。

- 学校支援セットのように病院や刑務所の図書室を資料面で支援したり、イギリスの事例のように司書がカウンセラーや医師と協力してブックリストを作成して提供したりと、人々が抱える様々な課題を解決するための試みは、サービスの質の向上につながると思われる。
- 感染対策の徹底を行い、安全で安心して利用できる環境を提供するとともに、非接触・非来館型サービスの拡充に伴う職員負担を増大させないための工夫(AI、ICTの活用など)を検討する必要がある。
- あらゆる主題に及ぶレファレンス・サービスに対応するためには、職員個々のスキルアップが求められる。外部で開催される研修会や、館内研修に積極的に参加し、自己研鑽に努める必要がある。

Ⅲ 地域学の殿堂を目指す図書館

1 地域資料の収集

(1) 収集統計

年度	購入	寄贈	年間受入冊数	地域資料所蔵数
2021(令和3)	538	699	1,237	95,740
2020(令和2)	589	480	1,069	94,082
2019(令和元)	607	3,584	4,191	92,984
2018(平成30)	718	3,634	4,352	88,807
2017(平成29)	555	1,594	2,149	83,939
2016(平成28)	507	1,245	1,752	81,614

※「評価指標実績」ほかより

- 評価指標の項目に、「地域資料所蔵数(地域資料図書総数)」として、郷土資料、行政資料、県人著作の所蔵数を設定しており、年間受入図書冊数も増加傾向にある。

(2) 収集の取り組み等

- 「山梨」に関する資料や情報は、可能な限り網羅的に収集し幅広い活用を目指しているが、非流通資料も多く、刊行情報の把握が課題である。
- 地域資料の充実を図るため、刊行情報の収集や資料収集に関する協力依頼などの広報活動を積極的に行い、職員ポータルやホームページ、SNS等を活用したPRにも取り組んでいる。
- 県発行の行政資料については、「情報提供資料の収集管理に関する要綱」において図書館へ3部提供するよう明記され、網羅的な収集に向けた体制づくりにも取り組んでいる。
- また、地域資料の収集においては、古書店目録等古書に関する情報を積極的に収集し、必要と考える資料については過去に遡って収集し、適切に整理し、保存に努めている。

2 地域資料(情報)の所在の把握

(1) 図書館等の所蔵資料検索

- 甲府学問所蔵典館の旧蔵書を中心とした『山梨県立図書館所蔵漢籍目録』の収録漢籍は、平成29年度に「全国漢籍データベース(<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki>)」にデータ提供を行い、web上での検索を可能とした。

- 旧館時より、県内市町村立図書館の所蔵資料については、山梨県図書館情報ネットワークシステムで一元的に検索ができ、所在の確認が可能である。また、関連機関の所蔵資料については、新館から横断検索で各機関の webOPAC が横断的に検索でき、所在の確認が可能である。
- 平成 10、11 年に文部省「社会教育施設情報化・活性化推進事業」（略称：山梨県デジタルアーカイブ推進事業）の一環として作成した「甲州文庫」のデジタル画像は、新館開館時に「山梨デジタルアーカイブ」に組み込んだ。

(2) 各種リスト等の利用

- 県内の各図書館等で所蔵する山梨県出身・在住の人物に関する資料情報については、「山梨ポータル 発見！ やまなしナビ」内の山梨県公共図書館協会地域資料研究部会「人物資料リスト」(https://navi.lib.pref.yamanashi.jp/country/post_26/index.html) を作成・公開することで、情報の共有を図っている。
- 近世以前の古文書類については、平成 17 年度に山梨県立博物館に移管したが、問い合わせも多いため、『山梨県立図書館所蔵古文書目録』（冊子体目録 10 冊）によって確認している。

(3) WEB サイトの利用等

- 山梨県内の地域情報や地場産業に関する web サイト情報や、県の機関が作成したデータベース等については、図書館ホームページにリンク集を作成・公開している。
- 行政資料については、近年紙媒体で刊行されない資料が多いため、令和2年度から電子書籍サイトに電子書籍として登録し、利用できるよう整備している。

(4) 現地での情報収集

- 山梨県公共図書館協会地域資料研究部会の視察や研修などの機会を通じ、県内のさまざまな分野の専門機関や施設などを訪問し、情報資源の所在情報の把握に取り組んでいる。
- 県内市町村立図書館の地域資料室（コーナー）や、地域資料におけるコレクション、重点収集などについての紹介、各地域に関する事項を調査する際に使用する基本資料に関する情報を収集し、各地域の地図資料の所蔵状況などの情報共有を図っている。

3 山梨関係レファレンス・サービス

(1) 山梨レファレンス担当者の配置

- 「山梨関係資料コーナー」を設け、山梨県に関係する資料（郷土資料・行政資料等）を配架している。コーナーの維持管理は、地域資料のレファレンス・サービス担当者が行っている。
- 「山梨関係資料コーナー」に山梨レファレンスデスクを設置し、司書有資格職員の配置を試みたが、効率的な人員配置のため、現在山梨レファレンスデスクに人員は配置していない。

(2) 特別コレクション等のコーナー設置

- 特別コレクションとして、「山紫水明 やまなしの水」コーナーを整備し、山梨県が誇る豊かな「水」をテーマに資料を収集・展示している。コーナー内に小テーマ展示を設けて 2 カ月ごとに入替を行い、新着資料については SNS を活用して紹介し、ブックリストは、webOPAC、館内 OPAC の「おすすめ資料」で公開している。
- 山梨県出身、ゆかりの方が書いた本を、特別コレクション「県人著作コーナー」として整備し、収集・展示している。
- 山梨関連テーマ展示として「富士山」「ワイン」をテーマに資料を収集・展示している。ブックリストは、webOPAC、館内 OPAC の「おすすめ資料」で公開している。
- 地場産業や伝統工芸の資料を紹介するコーナー「郷土の恵み・人の技」の常設展示は、令和元年度にリニューアルし、3 カ月ごとにテーマを変えて、山梨県の地場産業や伝統工芸、それに関わる匠の技等の関連資料、関連パンフレット、ポスターなどを展示している。

- 県市町村広報誌、「山梨日日新聞」縮刷版、地図・地形図、住宅地図、県内新聞、新聞折込チラシ等を配置し、山梨県関係調査の利用に供している。
- 行政資料の利用促進のために、令和3年から、行政資料の書架内に、調査研究に有用な行政資料を選択して紹介するコーナーを設置している。

(3) WEB サイトの利用等

○ 山梨について知りたい方へ役立つ情報を紹介したり、図書館の資料をわかりやすい形で提供する web 上の情報ポータルサイト「山梨ポータル 発見！やまなしナビ」を運営している。サイト内の「山梨関係資料コーナー」では、山梨県関係資料コーナーの案内や、資料の調べ方、旬の情報提供「レファレンスデスク通信」を発信している。

* 山梨関係レファレンス件数

年度	件数
2021(令和 3)	762 件
2020(令和 2)	734 件
2019(令和元)	1,070 件
2018(平成 30)	1,237 件
2017(平成 29)	1,628 件
2016(平成 28)	1,533 件

※平成 25 年度～27 年度は統計なし

4 デジタルアーカイブ

(1) 概要

来館しなくてもインターネットからのアクセスにより誰もがいつでもどこからでも利用できるよう、所蔵資料を中心に地域資料・国書・漢籍などの貴重資料をデジタル化し、公開している。

平成 24 年 11 月 11 日の新館開館に合わせて、平成 23、24 年度の 2 年間で所蔵資料を外部委託によりデジタル化した。また、甲州文庫の移行データ分、平成 25 年度以降の職員によるデジタル化作業分をあわせ、2,261 件(令和 4 年 3 月 31 日現在)が公開されている。

(2) 登録実績

* 山梨デジタルアーカイブ登録・公開件数/枚数

年度	DB登録件数	DB登録枚数	公開件数	公開枚数	備考
令和 3	56	3,263	56	3,263	
令和 2	323	12,655	107	11,907	
令和元	73	5,733	73	5,733	
平成 30	27	1,816	20	1,800	
平成 29	318	7,276	59	6,656	
平成 28	89	4,955	53	4,879	
平成 27	74	6,581	51	6,513	
平成 26	129	5,020	109	4,981	
平成 25	82	530	62	489	
平成 24	1,809	23,693	1,418	23,279	撮影・登録委託/甲州文庫移行含む
平成 23	253	21,171	253	21,171	撮影・登録委託
計	3,233	92,693	2,261	90,671	

(3) デジタル化資料

資料の選定は、以下の点に基づき、各年次計画により決定する。

- 山梨県立図書館特有の資料(地域資料等の貴重資料)
- 原資料の劣化が進んでおり、利用に供することが困難なもの
- インターネット上に公開することでより多くの活用が見込まれるもの
- 全世界に向けて山梨県の魅力をPRできるもの

〈デジタル化資料の例〉

- 甲州文庫: 現在は県立博物館に移管したもの
- 図書: 明治や昭和にかけての統計書、地域資料等
- 国書: 山梨大学前身の徴典館旧蔵の『甲斐国志』『甲斐名勝志』
- 地図: 山梨県、甲府を中心とする地図(『山梨県管内全図』『甲府市全図』等)

5 今後の取り組みについて

- 山梨のことならあらゆることが調べられる図書館としてサービスを提供する上で、レファレンスデスクへの職員の配置は重要である。コロナ禍による感染拡大防止対策のため職員の作業負担が増えている中で、サービスの低下を招くことのないよう人員と時間の確保が求められる。
- 図書館の広さやサービス内容に対して職員数が不足している。まずは人数を確保した上で、年齢的なバランス、研修によるスキルアップが重要である。今後、県立図書館の果たす役割も多様化していく中で、職員の増員が必要である。
- 旧館の郷土資料室のような山梨関係専門の職員の配置は、現状難しいが、職員には公私ともに学習・研修を継続し、自己研鑽に努めていくことが求められる。
- 県内の研究機関、類縁機関との連携を深め、図書館が窓口になって利用者が満足するサービスを提供できる体制を確立する必要がある。
- 地域学に興味を持ってもらうためには、例えば印伝のひな人形を「郷土の恵み・人の技」コーナーで紹介するなど、季節のイベントと山梨の特徴的な産業や伝統工芸などを連動させた展示も効果的である。
- 山梨県関係の資料を収集し、デジタル化して発信することは県立図書館の役割としても重要である。作業を計画的に進めて作成数を増やし、継続して公開していることは評価できる。今後は、その活用が課題である。

IV 賑わいを創出する図書館

1 様々な活動の場所としての活用

図書館は、図書を始め様々な情報を集積している場であり、インターネット情報を含め、様々な形の情報が入手できる場である。多様な県民活動が可能な場として賑わいを意識して活用を進めた結果、新館開館後からコロナ禍前まで毎年、年間 90 万人を超える来館者があった。

*入館者数、交流エリア利用数の推移

年度	開館日数 (閲覧エリア開館日)	入館者数	交流エリア利用数		
			イベントスペース	多目的ホール	交流ルーム
2021(令和3)	309(266)	365,735	26,818	7,811	16,071
2020(令和2)	297(251)	269,150	18,895	6,795	14,251
2019(令和元)	341(270)	913,075	49,589	23,859	43,806
2018(平成30)	340(297)	923,345	57,088	26,599	47,398
2017(平成29)	340(298)	922,617	52,954	31,117	44,596
2016(平成28)	340(297)	908,706	56,382	26,824	41,492
2015(平成27)	341(298)	932,692	52,923	24,273	40,453
2014(平成26)	340(300)	905,801	50,088	25,210	39,990
2013(平成25)	340(299)	915,452	42,498	21,254	35,155
2012(平成24)	187(-)	404,510	20,012	12,511	16,973

(1)各種の県民活動の場 —交流エリアの利用—

遮音できる部屋や様々な大きさの部屋など、大きさや仕様の異なる施設は、図書館の主催事業での利用と同時に一般利用者にも有料で提供している。県民が多様な目的に応じて選ぶことができるため、会議・セミナー・研修会・勉強会・自習・テレワーク・展覧会・演奏会・楽器練習など様々な形で活用され、展覧会や講演会などを開催することで、不特定多数の人が集まり、交流する場ともなっている。コロナ禍以降は感染防止対策のため利用制限が行われている関係で利用率が低下しているが、新館開館以来、令和元年までは右肩上がりに上昇していた。平成30年の実績は、イベントスペース57,088人、多目的ホール26,599人、交流ルーム47,398人の利用となっており、稼働率も78.6%と非常に高かった。

(2)学びの場 —「サイレントルーム」「パソコン用電源席」など—

レンタルスペース以外にも館内に様々なコーナーや座席を用意して、図書館で学びたいというニーズに応えている。例えば館内で会話を楽しむことができるが、一方静かに学ぶことを希望する人も多く、サイレントルームがそうした要望に応えるかたちとなっている。その他、館内にWi-Fiが設置され、サイレントルーム以外のどの席でもパソコンが利用できる、また、拡大読書器や車椅子席、対面朗読を行う部屋など、ハンデがある人へのニーズにも対応した学びの場を提供している。

(3)図書館協力員のボランティア活動を行う場 —図書館協会の活動—

より開かれた図書館を目指し、利用者の視点からの図書館づくりを一層進めていくため、協力員(ボランティア)を、毎年80名募集している。協力員は図書館協力を組織し、県立図書館に事務局を置いている。通常、協力員は、案内・書架整理、環境整備、外国語による絵本の読み聞かせ会、代読サービス、修理・ブックコート等の分野に分かれて活動を行っている。加えて、協力会全体の活動として、自主研修会を開き、自己研鑽に努めるとともに、やまなし読書活動促進事業と連携した古本市などのイベントを開催している。

(4)情報発信の場

総合案内付近では、専用のコーナーを設け、ちらし、ポスター、パンフレットなど、県内の観光やイベントに関する情報提供が行われている。図書館以外の施設や団体等のちらしなども積極的に受け入れており、県民自ら情報発信を行うことができる場ともなっている。また、デジタル情報スタンドを設置しており、情報をデジタルで入手することができる。

2 主催・共催事業、指定管理者自主事業

県立図書館は、県民の多様な活動を支える場所として整備されている。他の文化施設や社会教育施設と比較しても、日常生活の中で気軽に利用できる施設としての性質が強い。実際にコロナ禍以前は、年間90万人以上の人々が様々な目的で図書館を利用するために来館している。県民の交流を促進し、地域に賑わいを創出することは県立図書館の大きな役割であり、そのために設けられた交流エリアの施設を有効に活用して、県民の読書促進や将来的な図書館利用に結びつく質の高い、魅力ある事業を実施する必要がある。

これまで、館長の連続講座や館長企画事業などの主催事業の開催とともに、図書館協力会やNPO法人など各方面の多彩な団体と連携した共催事業を実施してきた。

また、施設の維持管理を担当している指定管理者による自主企画事業も実施している。

*主催・共催・指定管理者自主事業(要覧より)

年度	展示	イベント数					参加人数
	県	合計	県			指定管理者 自主事業	
			計	主催	共催		
2021(令和3)	85(0)	67(27)	62(25)	45(22)	17(3)	5(2)	2,705
2020(令和2)	43(1)	28(38)	25(29)	17(21)	8(8)	3(9)	3,451
2019(令和元)	29(1)	55(11)	44(11)	29(8)	15(3)	11(0)	10,735
2018(平成30)	27	74	62	38	24	12	9,123
2017(平成29)	27	73	60	38	22	13	8,840
2016(平成28)	27	78	64	43	21	14	8,102
2015(平成27)	32	89	75	50	25	14	8,006
2014(平成26)	31	75	58	32	26	17	7,969
2013(平成25)	31	89	74	26	48	15	9,240
2012(平成24)	13	68	58	35	23	10	14,755

※平成24年度は11月の新館開館以降の数値

※()内は新型コロナウイルス感染拡大により中止した事業数

《主な主催・共催事業》

(1) 主催事業

- ・館長連続講座、館長企画事業
- ・おんがくかいぶらり
- ・シネマかいぶらり
- ・かいぶらり朗読のつどい(いそどりものがたり朗読会)
- ・かいぶらり朗読のつどい山梨県芸術文化協会新春合同朗読会
- ・中高生ジョイントコンサート
- ・かいぶらり ことばのひろば(県立図書館協力会事業)
- ・外国語の絵本読み聞かせ(県立図書館協力会事業)
- ・ナレッジスペース展示

(2) 共催事業

- ・こどもの日のための腹話術とパペットショー(パペットクラブ)
- ・かいぶらり健康フォーラム 山梨がんサミット(NPO法人がんフォーラム山梨)
- ・かいぶらり司法書士無料相談会(山梨県司法書士会)
- ・まーの・あ・まーの 手話のおはなし会(まーの・あ・まーの)
- ・図書館で楽しむ子育て(NPO法人子育て支援センターちびっこはうす)
- ・おはなし☆おはなし(図書館ボランティアやまなし)

- ・かいぶらり朗読のつどい 春を呼ぶ朗読ライブ～中高生とともに～(図書館ボランティアやまなし)
- ・かいぶらりシチズンカレッジ(放送大学)

(3) 指定管理者自主企画事業

- ・絵本で知る世界の国々－IFLA からのおくりもの－(国際子ども図書館の展示会セットの展示)
- ・山梨県立図書館ぶどう園(シールを貼って絵を完成させる参加型展示)
- ・県民の日図書カフェきのこをまなぼう～県立図書館プロジェクターツアーを添えて
- ・図書館ピアノ(閲覧エリア休館日に南エントランスにストリートピアノを設置)

3 地域との連携事例

(1) 館長出張トーク

新館開館当初より県内の学校や市町村立図書館(教育委員会)が主催するイベントに、阿刀田前館長、金田一現館長が参加する形で、各自治体の会場や学校に赴き、希望する内容にそって講演や地元住民を交えたシンポジウムなどを行ってきた。毎年対象を変えて、10 回程度実施している。普段図書館に来ない人々も、図書館を感じる機会となっている。

(2) ヴァンフォーレ甲府との連携イベント

毎年 J リーグの開幕戦に合わせ、連携展示を行っている。ユニフォームなどチームの関連グッズ、キャンプの写真などヴァンフォーレ甲府にまつわる展示に加え、ホーム開幕戦の対戦チームのホームタウンに関係する資料を展示している。新館開館当初は選手のおすすめ本を並べるなどの企画を行ったり、J1に昇格した際には、チームからお借りした横断幕を掲示し、チームの歴史やシーズンを振り返る企画も行った。また、シーズン中、対戦チームのホームタウンとの交換展示を行った。互いに観光パンフレットや資料を、貸し借りして展示し、地域の盛り上がりをはかった。

(3) 地域イベントへの参加・協力

「信玄公祭り」に合わせて、3月から4月にかけて関連の資料展示を行っている。信玄公祭りの陣屋が図書館のエントランスに設置されたこともあった。その他、甲府開府 500 年や明治 150 年など、山梨県内の大きなイベントにちなんだ展示を、主催団体と連携して行っている。

また、よっちゃばれ広場や甲府市歴史公園と山梨県立図書館のように、会場をまたいだイベントも開催されている。その他県立図書館を会場にして、県民が様々なイベントを開催している。

新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場としての利用や、確定申告の時期に税務署の依頼により駐車場利用なども行われた。

(4) 雑誌スポンサー制度

企業・団体・個人事業主がスポンサーとなり雑誌を提供していただく制度で、平成 30 年度から導入された。寄贈された雑誌の最新号のカバーに、企業広告を貼付しPRできる。広く県民の利用に供する資料の充実を図ることを目的とし、身近な社会貢献活動の場となっている。

(5) やまなし読書活動促進事業(やま読)

地域の書店等と連携した取り組み(前述 I-5)

4 今後の取り組みについて

〇コロナ禍で自由に遊べないという子どもたちに現実の場所を設定するのは難しい面もあるが、図書館がオンラインで交流できるプラットフォームになり、コンテンツの提供やイベントの開催など、人との交流を創出するような場所を作っていく必要がある。

- 文学館、美術館、博物館などの施設と連携し、各施設を周遊できるようなモデルコースを紹介するなど、図書館だけでなく関連施設や県の教育委員会などと連携して、県民全体で賑わいを創出するような活動をしていくことが求められる。
- 図書館の建物はいくつかの建築賞ももらっており、図書館のコンセプトを表現している特徴的な面もあり、建物自体に興味を持って視察に来る方もある。関連するイベントを開催することも考えられる。
- 図書館主催・共催事業については、読書推進や図書館利用促進につながるイベントを行い、着実に参加者を増やし、県民の交流の場として評価されているが、イベントスペース・多目的ホールなどの貸出施設の利用は、必ずしも直接本との結びつきがない催しも見受けられる。文化の拠点として賑わいを創出し、本を仲立ちとした結びつきを強化することが求められている。
- 機器等の整備により、オンラインによるイベントが可能になり、遠方からも気軽に参加できるようになったが、一方で、人と会って話す良さもある。会って話さなければできない活動として図書館に何ができるのかも考える必要がある。
- 駅前という立地条件もあり、閲覧エリアと交流エリアの境目のない建物の設計からも人々が集い、常にイベントが行われている。多様な目的を持った人々が交流する賑わいの場を提供する成功例として紹介されることが多い。今後は、図書館施設としての賑わいが、近隣地域の賑わいの創出につながるような取り組みを期待する。
- 近年、子どもの数は減っているのに小中学生の不登校者数は増加している。県立図書館は、立地的に子どもだけでも来られる施設でもあり、学校に行けない子どもたちの居場所としての役割が求められている。

2) コロナ禍における図書館機能と運営について

新型コロナウイルス感染症の流行による図書館への影響は、令和2年2月に始まる。まず、主催イベントの中止。そして、緊急事態宣言により、図書館を含む山梨県内の公共施設が一斉に休館することになった。県立図書館では、休館中も臨時窓口を設け、資料の貸出サービスは継続した。同年6月2日に再開するも、滞在時間や座席数を制限しての運営となった。

その後、感染状況により、順次制限が緩和されたが、令和3年8月にまん延防止等重点措置が出され、再び休館することになった。同年9月14日に再開し、山梨県感染症対策センター(山梨県CDC)の助言を受けながら、段階的に制限を緩和し、同年11月17日からサイレントルームの一部を開放した。

令和4年に入っても第6波(1月)、第7波(7月)と呼ばれる感染の急増が見られたが、図書館サービスは継続している。

1 感染拡大防止対策

(1) 利用制限

- 令和2年 2月 28日～ 閲覧エリア閉館(臨時窓口対応)
 - 令和2年 4月 17日～ 全館閉館(サービス窓口は閉じ、必要に応じて通用口からの対応)
 - 令和2年 5月 9日～ 臨時窓口再開(予約資料の貸し出し)
 - 令和2年 6月 2日～ 全館制限付き開館(～17:00)(座席なし、滞在時間制限)
 - 令和2年 7月 10日～ 新聞、雑誌閲覧席に座席提供
 - 令和2年 10月 1日～ 開館時間の延長(～18:00)
 - 令和2年 10月 25日～ 主催イベント再開(かいぶらり教養セミナー)
 - 令和2年 11月 5日～ 開館時間延長(～19:00)、閲覧席の提供(制限付き、順次拡大)
 - 令和2年 11月 18日～ 利用者用パソコン再開(制限付き)
 - 令和3年 1月 19日～ おはなし会部分再開
 - 令和3年 4月 1日～ 代読サービス再開
 - 令和3年 5月 11日～ 広域返却サービス再開
 - 令和3年 8月 8日～ 全館閉館
 - 令和3年 8月 9日～ 臨時窓口再開(予約資料の貸し出し)
 - 令和3年 9月 14日～ 全館制限付き開館(～17:00)(座席数制限、滞在時間制限)
 - 令和3年 10月 1日～ 平日開館時間の延長(～19:00)
 - 令和3年 11月 17日～ 土日祝日開館時間の延長(～19:00)
サイレントルーム 301 の再開(座席数制限、時間制限)
 - 令和4年 1月 9日～ おはなし会、朗読会の中止(～3月中)(オミクロン株感染拡大による)
 - 令和4年 4月 1日～ 平日開館時間の延長(～20:00)
おはなし会部分再開
 - 令和4年 5月 1日～ 交流エリア開館時間の延長(～21:00)
 - 令和4年 6月 14日～ サイレントルーム 203 の再開(座席数制限、時間制限)
閲覧エリア座席増設
 - 令和4年 6月 18日～ マスク着用必須から推奨へ(2メートルの間隔、会話しない場合)
 - 令和4年 10月 7日～ サイレントルーム 201、202 の再開(座席数制限)閲覧エリア座席数増設
- ・AVブースは閉鎖中。他は座席数を縮減している。
・滞在時間は3時間程度とする。

(2) 感染症対策

- ・利用の際のマスク着用(フェイスガード、手袋の配備)
- ・館内施設・設備の除菌作業実施(定期作業、貸室利用後)
- ・返却資料の除菌作業実施
- ・手指消毒のためのアルコール消毒液設置
- ・除菌ボックス設置
- ・サーキュレーター配備(各室換気のため)
- ・アクリル板の設置(各窓口、イベント等での利用)
- ・サーモグラフィの設置(出入り口)
- ・ソーシャルディスタンス確保のための各種表示
- ・利用間隔維持のためのレイアウト変更
- ・感染対策等の館内放送
- ・多目的トイレ、親子トイレ、授乳室の自動ドアの非接触化 等

2 非接触サービスの拡充

(1) オンラインサービス

- ・リンク集(自学自習のための情報提供、県内図書館の対応状況一覧 等)
- ・リモート会議システムの導入(研修事業、会議、イベントでの活用を想定)
- ・電子書籍の充実と利用促進の働きかけ
(令和2年度に新たに2,000タイトル購入、トライアルサービス実施)
(令和3年度に新たに1,300タイトル購入)

(2) 非接触型サービス機器の導入

- ・デジタルサイネージによる情報提供
- ・自動返却装置の設置

3 今後の取り組みについて

- 正しく効果的な感染対策をとりながら、制限を緩和していくべきである。そのためには、感染症に関する情報を収集し感染状況をみながら、国・県の方針や山梨県CDC等の専門機関の助言を参考に、図書館として適正に判断する必要がある。
- 県立図書館は、人々が交流し賑わう図書館としてサービスを行ってきた。コンセプトとして、おしゃべりは可能な図書館である。また、駅に近いということで山梨県はもとより首都圏も含めた感染状況も考慮して制限緩和について、慎重に判断する必要がある。
- 図書館には不特定多数の方が来館し、その行動は把握しきれないため、今までどおりのサービスを提供するわけにはいかない。感染対策に要する時間や職員の負担、費用なども考慮し、ワクチン接種の拡大や感染者の減少など時期をみながら徐々に戻していくことが現実的である。
- 緊急事態宣言が出された令和2年4月には9割の自治体で図書館が閉館となった。これは災害に近い。災害時に備えて感染症対策も平時から考えておくべきである。そのためには関係機関や専門家と連携できる体制を作っておく必要がある。
- コロナ禍で学校も閉まり、子どもたちの行き場所がなくなった。貧困家庭では自宅に勉強スペースがない状況で図書館の重要性が再認識された。公共施設であり、まん延防止等重点措置の適用に伴

い休館期間が長かったのはやむを得ないが、ウィズコロナの時代に利用者の安全・安心を最優先しつつ、子どもたちの居場所としてのスペースを確保する必要がある。

○コロナ禍で行われた全国図書館大会山梨大会は、オンラインでの開催となった。ウェブ会議システム等の機器を整備し、発表動画を一定期間配信し、当日はリアルタイムで意見交換の様子を配信するとともにサテライト会場を設置した。ここでの経験を生かして新たな取り組みにつなげたい。

○オンライン化・デジタル化への移行が加速した状況をうまく捉えて、オンラインの研修会の開催やハイブリッドさせた情報サービス環境を整えることが望まれる。

【参考】感染症対応補正予算の概要

令和2年度6月補正予算（県単独）

事業名：図書館感染症防止対策強化事業

事業内容：体表面温度チェッカー（サーモグラフィー）の購入（2台）

予算額：426千円

令和2年度9月補正予算（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金）

事業名：新しい生活様式に対応した図書館機能強化事業

事業内容：(1) 県民が安心して来館できる環境の整備

①感染症に強い館内整備

・非接触で本の返却を可能にする自動返却機の導入、飛沫防止のための間仕切り、換気のためのサーキュレーター整備等

②デジタルサイネージによる非接触型情報提供

・非接触での情報提供を実現するために、現在設置しているデジタルサイネージ用ディスプレイの入れ替え

(2) 非来館・遠隔によるサービス・機能の強化

①電子書籍コンテンツの充実

・専門的資料群に加え、若い世代が気軽に利用できる電子書籍購入

②ウェブ会議システムの導入

・ウェブ会議システムの整備（各種機器、アプリケーション（ZOOM））

予算額：30,743千円

令和2年度12月補正予算（指定寄付金）

事業名：図書館感染症防止対策強化事業

事業内容：サーモグラフィーカメラの購入（2台）、飛沫防止衝立（4台）他の購入

予算額：1,718千円

令和3年度11月補正予算（新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金）

事業名：図書館機能強化事業

事業内容：電子書籍コンテンツの購入

・映像や音声などを含む幅広い電子書籍購入

予算額：6,160千円

事業名：図書館感染予防対策強化事業

事業内容：多目的トイレ等自動ドア整備（5箇所）、親子トイレ（1箇所）、授乳室（1箇所）

予算額：2,493千円

【資料】

■協議経過

- 山梨県図書館協議会委員委嘱・任命 令和3年2月18日（木）
- 第1回協議会 令和3年2月18日（木）
- ・県立図書館の運営状況について
 - ・令和2年度から令和4年度の協議内容
- 第2回協議会 令和3年12月16日（木）
- ・コロナ禍における図書館機能と運営について
- 第3回協議会 令和4年2月22日（火）
- ・開館10年を迎えての事業の総点検
- 第4回協議会 令和4年10月28日（金）
- ・図書館協議会の報告書について

■委員一覧

任期 令和3年2月1日～令和5年1月31日

	氏名	所属・職業（在任時）
会長	長谷川 千秋	山梨大学教育学部教授
副会長	青柳 千絵美	市川三郷町立図書館前館長
委員 (五十音順)	大井 奈美	公募委員
	大藤 愛子	NPO 法人ちびっこはうす 韮崎市子育て支援センター事務局
	橋田 浩 ※R4.4～	山梨県立日川高等学校長 山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会長
	五味 優子	山梨日日新聞社 論説委員
	塩入 由里 ※R3.4～R4.3	山梨県立富士北稜高等学校長 山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会長
	鈴木 和代	公募委員
	鈴木 信行	社団法人山梨県私学教育振興会幼稚園部会長 聖愛幼稚園園長
	須藤 令子	有限会社 朗月堂 代表取締役 やまなし読書活動促進事業実行委員長
	田中 祐光	NPO 法人つなぐ副理事長
	内藤 和彦	甲斐市立敷島小学校長 山梨県学校図書館教育研究会会長
	中山 吉幸	山梨県社会福祉協議会事務局長
	羽田 孝行 ※R3.2～R3.3	山梨県立富士北稜高等学校長 山梨県高等学校教育研究会学校図書館部会長
	日向 良和	都留文科大学教授
	藤巻 愛子	山梨むかしがたりの会代表 日本民話の会会員
渡辺 信二	山梨英和大学教授 立教大学名誉教授	